

## 14 近年の当院におけるダニ刺咬による感染症の検出例と

### 休日夜間救急外来での対応マニュアルについて

○川内保彦<sup>1)</sup>、井上慎介<sup>1)</sup>、西原三重<sup>2)</sup>、土井和子<sup>3)</sup>、宮原正晴<sup>4)</sup>

1) 唐津赤十字病院 検査技術課、2) 同看護部、3) 同皮膚科、  
4) 同血液内科

(はじめに)

近年当院でもダニに刺咬されることにより感染する節足動物媒介性の感染症である、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、日本紅斑熱、つつが虫病の検出を認めるようになった。これらの感染症は予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律で、四類感染症に分類されている。今回2012年から当院で確認されたダニ刺咬による感染症、SFTS、日本紅斑熱、つつが虫病の受診時の検査データ、及び休日救急外来受診時でのダニ刺咬患者の対応マニュアルを作成したので報告する。

(症例1)患者:64歳男性、初診:2012/06/26、現病歴・現象:職業農業、前医より意識レベルの低下、採血の結果より急速な肝腎能低下を認めたため、当院紹介となる、PCRの検査より、SFTSと診断された。

(症例2)患者:70歳女性、初診:2012/09/04  
家族歴:特記なし、既往歴:2型糖尿病現病歴・現象:農作業後の発熱、その後の皮疹あり、右前腕に痂皮加した刺咬もありリケッチア症の感染症を疑う。抗体検査、PCRの検査より日本紅斑熱と診断された。

(症例3)患者:76歳女性、初診:2014/08/07、  
既往歴:高血圧、慢性肝炎(C型)家族歴:

特記なし現病歴・現象:受診時発熱、白血球600/ $\mu$ lと著明な低下あり、著明なbicytopeniaを認めた。PCRの検査より、SFTSと診断された。

(症例4)患者:79歳女性、初診:2014/08/15、  
家族歴:特記なし既往歴:高血圧、十二指腸潰瘍現病歴・現象:山仕事をよくする、受診時発熱、体幹から四肢にかけてのびまん性の小丘疹、血小板減少を認めた。明らかなダニ刺咬痕はなかつたがSFTS、リケッチア症の感染症を疑う。抗体検査、PCR検査により日本紅斑熱と診断された。

(症例5)患者:67歳男性初診:2014/11/06、  
家族歴:特記なし既往歴:高血圧、現病歴・現象:職業山仕事、10日前位から左脇腹にポチツとした刺咬があつた。7日前から39度台の発熱が出現してその後続いていた。抗体検査、PCR検査によりつつが虫病と診断された。

(まとめ)近年当院ではダニ刺咬による感染症が時々認められるようになった。その為休日夜間救急外来でのダニ刺咬によるダニの除去方法、除去後の採取したダニの管理方法等の受診患者の対応マニュアルを作成したので報告する。

連絡先 0955-77-3860 (内線 316)